

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	フワパン県において、環境保全にもなる生活植林等を行いながら、生計向上を目指す。
(2) 事業の必要性(背景)	<p>ラオスの北東山岳地帯に位置するフワパン県では、村人は自給自足に近い生活を送っている。現金収入となる森林資源の活用が重要な生業であるが、近年焼畑による山の荒廃が進捗しており、その為木材や他の森林資源からの収入が減少している。このような状況下、フワパン県農林局は山林再生の為に、伝統的な森林資源である安息香の木や、植物油が採取できるマカオの木等の植林を推奨している。又収入の減る冬の農閑期にも、村人に就労の機会をもたらす可能性を持つ養蜂業の立ち上げは、村人の現金収入の機会を増やし、地域の環境保全と生計向上を図る上で重要な方策と位置づけ、その普及に期待をしている。</p> <p>当法人は、平成 23 年度にサムヌアの圃場で、安息香の木の苗木 5,000 本を生産し、今年度の植林用として育成している。ホムアン郡の 2 村では、村人が安息香の木 3,000 本を探し出し、安息香の生産も始めている。一方、養蜂業ではベトナムの「ミツバチ研究所」の支援を受け、郡毎に講習会を開催し、村人への養蜂技術の紹介と、東洋蜜蜂 100 群の供与を行った。村でも安定した現金収入が期待できる生業として、蜜蜂群の飼育と技術の習得を望む人が徐々に増えている。</p>
(3) 事業内容	<p>(イ) 生活植林</p> <p>① 植林</p> <p>安息香の苗木：</p> <p>ホムアン郡の 4 村に安息香の苗木 5,000 本を植林する。植林地は村人と協議の上、村に近い農林業用の山林を選択し、生産効率を高める。</p> <p>マカオの木の植林：</p> <p>前年度に続きヴィエンサイ郡、サムヌア郡、ホムアン郡の 12 村に 10,000 本のマカオの木苗木を植林する。6 年後から植物油用の実を採取する。</p> <p>果樹の植林：</p> <p>柿、梨、リンゴ、ブルーベリーなど生産が可能である果樹 100 本を村人の個人使用している山林に植林する。これらの果樹は将来蜜源にもなる。</p> <p>苗木圃場の拡張：</p> <p>サムヌアの現在の苗木圃場 (420 m²) は手狭になってきているため 5 万本の苗木生産が可能となるように 400 m² 拡大する。</p> <p>(ロ) 養蜂業</p> <p>① 養蜂業講習会</p>

	<p>前年度に続き、ベトナムの公的機関であるミツバチ研究所 (BRDC) の支援を受け、村毎にベトナム講師を派遣し、直接指導を行う。村へは、当法人と養蜂業担当の郡、県職員が定期的に訪問し、蜂群の状況を把握し個人指導を行うと共に、初心者には講習会を開催し、随時技術指導を行う。</p> <p>② 東洋蜜蜂群 (コロニー)、必要資材の供与 12 村には、前年度の 100 群に加えて 10~20 群/村、計 200 群を供与する。また巣箱や蜂群の維持管理用資材、砂糖、集蜜器などを供与し、良質な蜂蜜生産量を高め、市場で販売可能な商品とする。</p> <p>③ 蜂蜜の品質保全支援 村で採取された蜂蜜をベトナムへ送り不純物除去、水分調整等を行い、市場で販売可能な商品にまで品質を高める。</p>												
(4) 持続発展性	<p>(イ) 生活植林 安息香： 村は、安息香の共同組合を結成し、安息香の品質管理と生産販売を共同で行うようになる。また村では植林と安息香の生産が計画に基づいて実施されるようになり、新規に開拓された販売先に直接販売を行い、村人の収益が向上する。</p> <p>果樹生産： 柿、梨、リンゴ、ブルーベリー等が生産されサムヌアや郡の市場で販売されるようになる。日本産の柿や梨はラオスの新規の果物として高額で取引される。また果樹園が運営され村の収入源となっている。</p> <p>マカオの木： マカオの実がベトナム等に輸出されフワパン県における有力な森林資源となっている。</p> <p>(ロ) 養蜂業 東洋ミツバチの蜂蜜の品質基準を県農林局が定め、均一な商品を共同組合が販売する。蜜は小売だけではなく菓子や果物加工品などの製造業者にも販売され、フワパン県での地場産業誕生に貢献し、村人の就業場所となっている。</p>												
(5) 期待される成果と成果を測る指標	<p>1. 裨益者</p> <table border="1" data-bbox="715 1675 1324 1792"> <tr> <td>ヴィエンサイ郡</td> <td>3 村</td> <td>247 家族</td> <td>約 1,500 人</td> </tr> <tr> <td>サムヌア郡</td> <td>5 村</td> <td>718 家族</td> <td>約 3,700 人</td> </tr> <tr> <td>ホムアン郡</td> <td>4 村</td> <td>177 家族</td> <td>約 1,100 人</td> </tr> </table> <p>(イ) 生活植林</p> <p>① 植林された安息香の苗木 5,000 本は、6 年目から毎年 2.5 トンの安息香が採取可能となる。探し出された成木 3,000 本からは今年度より 1.0 トンの安息香が採取できる。</p> <p>② 10,000 本のマカオの木からは 6 年目から 30kg/本、300 トン</p>	ヴィエンサイ郡	3 村	247 家族	約 1,500 人	サムヌア郡	5 村	718 家族	約 3,700 人	ホムアン郡	4 村	177 家族	約 1,100 人
ヴィエンサイ郡	3 村	247 家族	約 1,500 人										
サムヌア郡	5 村	718 家族	約 3,700 人										
ホムアン郡	4 村	177 家族	約 1,100 人										

	<p>の実が採取され、実からは車両用の植物油が抽出される。</p> <p>③ 日本から輸入した梨の木等は現地の若木に接ぎ木されて数年後に果樹の収穫が可能になる。花は蜜源となり蜂蜜生産に貢献している。</p> <p>④ 植林後の山林 100ha は緑地として保全される。</p> <p>(口) 養蜂業</p> <p>① 蜂蜜生産</p> <p>養蜂業を始めた村に東洋蜂 200 群を供与する。一群からは一年で約 10kg の蜂蜜が採取できるので、前年度の 100 群に合わせた合計 300 群からは 3 トンの蜂蜜が収穫できるようになる。養蜂を行う村人は蜂蜜の販売で 10%程度の年間所得向上が見込まれる。</p> <p>② 養蜂業を实践する家族数とコロニー</p> <p>東洋ミツバチは扱い易いので副業で養蜂を行う農家が増える。12 村で 100 家族が 300 群のコロニーを飼育し分群で毎年その数を増やしてゆく。</p>
--	--